



HP
は
ら
か
ら
←

お話ししたい商高の歴史（壱州荒海太鼓部編）

校長 戎野和幸

さて、今回は、壱州荒海太鼓部の歴史について紐解きたいと思います。先日、「太鼓部って創部何年目なの？」という質問をいただきました。壱州荒海太鼓部は、平成13年に壱州荒海太鼓同好会として発足し、翌年に部活動として認められました。故に活動年数は、今年で22年目となります。部の前身である同好会時の顧問は、わたし（戎野）なのです。（写真参照）当時は、太鼓の数が今よりもずっと少なく、普段は、今の第4パソコン室でタイヤを叩いて練習を行っていました。また、週1回は、指導を風舞組（かざまいぐみ）にお願いし、勝本文化ホールで夜間練習をしていました。その後、岩國峰明先生（現 長崎県教育庁高校教育課 課長補佐）が顧問を引き継ぎ、現在は五貫先生と目良先生が顧問をしています。



ここ数年は、コロナ禍で発表の場が少なくなりましたが、令和2年度長崎県高等学校総合文化祭第18回郷土芸能発表大会では、金賞を受賞し、令和3年8月に行われた第45回全国高等学校総合文化祭に出場しています。なお、令和4年度でも県総合文化祭で金賞を受賞しています。

今年は、5月8日に新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが、「2類相当」から「5類」に引き下げられ、地域からの出演依頼が多数来ています。機会があれば、ダイナミックな太鼓のパフォーマンスを見ていただき、感動を味わって欲しいと思います。

文責：校長 戎野和幸

[学校名]
長崎県立壱岐商業高等学校

〒811-5533
壱岐市勝本町新城西触282

TEL: (0920) 42-0033

堂々とした高総体行進！

(6_2(金)実施)

今年の行進は、教頭として、団長として、2回目となります。商高生と共に作り上げる行進は清々しく、誇らしい気持ちになります。行進の練習時間は、高総体開会式の次の日からは各部活動の試合が始まるため、あまり時間をかけることはできません。それに関わらず、連帯感、一体感を感じます。きっと、行進する生徒が心一つにできること、体育科をはじめとした先生方の日頃の指導があるからだと思ひながら歩いています。

校旗を掲げて行進するということは、学校を代表して支えてくださる方々への日頃の感謝を形に表すことになると思っています。学校という集団生活の中で、仲間と力を合わせてやり遂げるという経験は、商高生のこれからの人生に必ず役に立つと感じています。



第35回全国高等学校
情報処理競技大会
長崎県予選

(6_18(土)実施)

県団体3位 &
個人3-3 小柳勇人さん
3位入賞！

本校卒業生、白バイ隊員として訪問！

(6_5(月)④校時実施)

本校ロータリーにて、2名の長崎県交通機動隊員が白バイの実技披露をしてくれました。そのうちの1名は本校の第51回卒業生の山本真奈美さんです。約50名機動隊中女性4名しかいない中、日々の職務を全うしています。大きな白バイを自分の一部のように扱うその姿は凛としていて、勇ましくもありました。商高を卒業して10年経ち、さらに成長した姿に出会えるのは何よりも嬉しく、一回りも二回りも大きくなった姿に、誇らしさを感じた時間となりました。



次ページへ続く→

小柳さんは長崎県代表として全国大会の出場権を獲得しています。全国大会は、7月23日10時から日本大学法学部本館(東京都千代田区)にて実施されます。県代表として頑張ってください！

授業研究会開催！

(7_10(月)⑦校時実施)

1年3組にて授業研究会を行いました。目的は一人残らずすべての生徒を学びに向かわせるためです。1つのクラスを全職員で観察し、授業者のどの発言、どのような仕草で生徒がどのような反応をするのを見取ります。

授業後の研究会ではいくつかのグループに分かれ、誰々がこのタイミングでこのような反応をしていた。もしかするとこのような支援をすると学びに促しやすいのかもしれないなど、肯定的な意見ばかりが出てきました。

この取組は2学期以降も実施予定で、対象となるクラスにはお迎えなど協力を賜ることがあるかと思いますが、今後とも本校の教育活動にご理解とご協力をよろしく申し上げます。
(研修担当 片山先生より)



1年商業科 増田先生の心に響く英語の授業

(7/4, 5, 10, 11, 12, 18実施)

1年1・2組対象に、英語科増田先生の「論理表現Ⅰ」の授業がありました。授業を通して、物事を「なぜ?」「なぜ?」と深く掘り下げて考えること、逆転の発想を大切にすること。過去を振り返ることなく、今を大切にすること、やるかやらないか決めるのは自分で、一歩踏み出す勇気を持つこと等々、経験に基づいた素晴らしい言葉をたくさんいただきました。心を揺さぶる授業をありがとうございました。

以下は、増田先生より、商高生へのメッセージです。



吉岐商の皆さんへ

増田 宇

「枕草子」の作者は？え〜と、清少納言！じゃあ、「徒然草」は？兼好法師っ？「方丈記」は？
学生時代、よく作品名と作者を覚えさせられたものです。実際に読んだことがあるかと聞かれたら、NO！！でも、今、最も自分の心情に近い作品が、鴨長明さんが書いた「方丈記」。新型コロナウイルス感染症の蔓延で、この作品が書かれた800年前も現代も、社会や世の中に対して感じる「虚しさ」や「はかなさ」が同じだったという事実、共感させられました。

「ゆく川の流るは絶えずして、しかも元の水にあらず」。

かつての長明さんは、「方丈記」の冒頭にこう書き記しました。この世に存在するありとあらゆるものは、常に流動変容し、何一つとして元のままではいられない、という諸行無常さを詠っています。流れゆく、そして二度と帰ってこない「今」という瞬間。彼は今を懸命に生きていたのです。

若者に限らず、現代を生きる私たちの多くは、事あるごとに写真を撮り、SNSを更新します。それはまるで「インターネットの海に残しておかなければ、今日という日がなくなってしまう」とでも言うかのように。

しかし、本当に私たちは「今」という瞬間について、自覚しながら生きているのでしょうか？

吉岐商の皆さんは、どんな「今」を過ごしたいですか？「楽しい今」「嬉しい今」そして「豊かな今」。そんな今を過ごしたいとは思いませんか？豊かな今。それは一体、どんな今なのでしょう？

私は、おかげさまで、この吉岐島へ移住し、新しい豊かさを見つけることができました。豊かさとは、きっと、自分自身の「川」を見つめることから始まるような気がします。切なくも美しい「今」という瞬間が流れゆく川。あなた自身の「川」が見つかればヨカですね。

あなたの「今」は、どこに向かって流れてゆきますか？